2018・2019年度入学生

プロダクトデザイン学科

教育目標（育成する人材像）

・次代を拓くプロフェッショナルを育成します。
・そのために、基礎となる知識やスキルの修得を踏まえて、特性に合わせたテーマでの実習を数多く経験することで、希望分野への就職に繋げます。
・第一線のプロとのコラボレーションを数多く織り込み、高度なデザイン開発を学ぶと同時に社会との関係を学び、就職に繋がる力を身に付けます。
・個性や目標に合わせたクラス編成やカリキュラム構成で学習意欲を喚起し、着実な能力の向上を図ります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

■修得する能力

探求力	人とモノと社会との関係を素直な視点と好奇心で観察して理解し、創造に結び付けられる知識を修得できる。
思考力	対象物並びに事象の成り立ちや関係性を見つけ、問題を抽出する力とそれらの要因や解決策を論理的思考に基づいて思考できる。
発想・構想力	知見を活かして、課題解決のアイデアやイメージを発想し、考察を加えて解決策の構想を提示することができる。
表現力	プロダクトデザインに求められるイメージやコンセプト、アイデアなどを適切な手法を用いて造形表現できる。
行動力	常にモノと人との関係に着目して、問題意識を持って、自ら積極的に行動し、対象物に接して学ぶことができる。
継続力	課題に対して、根気よく“用と美”を突き詰め、工夫を凝らしてデザインの創造に取り組むことができる。
コミュニケーション力	人とモノと社会との関係を様々な造形表現手法や言葉を介して、お互いの考えを理解し、より良い関係を築き、他者と調和しながら自らの役割を果たすことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

プロダクトデザイン学科では、使い易さと美しさを大切にして、環境と人へ配慮した商品を生み出して社会に貢献できるプロフェッショナルを、各学生の特性を活かして育成します。
そのための教育は、①講義による知識修得　②実技指導によるスキルの修得　③演習によるデザイン開発　これらで構成しています。

①知識の修学としては、“知る、把握する“こととして、素材や加工法、デザイン史、色彩学、ユニバーサルデザイン、エコデザイン、マーケティングやデザイン開発の手法などを、講義を通じて学びます。
②スキル修学としては、学科独自の専用工房（Product FAB）などを活用して
　・ハンドスキルとして、スケッチ、レンダリング、製図、木材や金属や布などの素材加工技術、塗装などの技術を身に付けます。
　・デジタルスキルとして、コンピュータを用いた作図や、スケッチ等のビジュアル表現及び3次元データによるCGや図面の作成、3Dプリンターなどを用いた立体加工などの技術を身に付けます。
③演習では、学生各々の学びの進捗に合わせたレベル設定でそれぞれのデザイン開発に取り組み、今までに学んだ知識・スキルも、その開発で使うことで自分のものにします。世界的なトップ企業やエキスパートとの共同作業も数多く行い、高度なデザインを学びながら視野と見識を向上させます。また演習は各人の特性に合わせたクラス編成で、各人に合う方法でデザイン力の向上を図ります。

受講に当たっては、各学生の担当教員が個性や特性を見極め、各人に合致したプロを目指す育成計画を作成して学生と共有し、学生が意欲を持って取り組めるよう進めます。

■学修方法

・演習では、プロダクトデザインの多様な分野が経験できる課題を設けています。教員と学生、または学生間のコミュニケーションを密にとりながら幅広いものづくりが経験できます。授業内だけでなく合評による発表を設け、プレゼンテーション力の向上を図ります。また、専用工房Product FABでは技官の指導を受けて独自の作品の制作をすることで、立体による表現力を高めます。
・講義では、学年ごとのステップに併せ、演習で求められる知識の修得を設定しています。予習、復習の目的をはっきりさせ、修得した知識を用いて課題を認識し、解決に繋げる力を育みます。

■学修過程

1～2年次：プロダクトデザインに関わる専門基礎知識とスキルを学びます。また、自発的に学習や研鑽をする習慣や、制作などでの成功体験が得られるよう細かな指導で力を付けます。
3年次　：1～2年次で培った基礎的な知識やスキルを活かし、演習形式で多様な商品デザイン開発を経験し、高度な構想力、展開力、造形力を身につけて就職に繋がる力を付けます。特に演習に於いては、企業やプロとのコラボレーションを織り込み、社会におけるものづくりの在り方を学びます。
4年次　：自分自身の目指す任意のテーマを設定してデザイン開発を行い、各人が学びの集大成としての卒業制作を行います。そして卒業作品展で発表します。

グローバル対応並びに大学院に繋がる育成として、早期に各人の意向や特性に合わせて個別指導を行い、教育の高度化を図ります。